

地歴公民(地理)

京都大学 (前期)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

選択式 (統計判定), 記述式, 論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問 5 題。選択式・記述式の解答個数は 38 で、昨年 (34) よりやや増加した。一方、論述式では、字数指定のあるものが 13 問 (昨年は 14 問)、総字数 415 字 (昨年は 510 字) とやや減少、字数指定のないものは 5 問 (すべて 20 字程度の 1 行枠) で昨年と同じであった。この結果、論述式全体の総字数は 500 字強となり、昨年 (約 600 字) に比べて 100 字程度減少したが、問題分量は昨年比較では大きな変化はない。大問ごとにみると、字数指定問題が I は 2 問 (45 字)、II は 2 問 (70 字)、III は 3 問 (80 字)、IV は 4 問 (150 字)、V は 2 問 (70 字) で、1 問当たり字数は、10 字が 2 問、30 字が 4 問、35 字が 1 問、40 字が 6 問であった。字数指定のないものは V で 5 問出題された。難易度に大きな変化はなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

大問数が 4 題から 5 題に増えた 2019 年以降は、より広い範囲から網羅的に出題する傾向が強まっている。2024 年度の大問構成は、I が工業を重視した地誌的問題、II が都市、III は砂漠化の危険性が高い地域に注目した地誌的問題、IV が航空交通、V が地形図となっている。問題量では、論述量の多い IV・V と選択・記述が多い I・II のように大問間の差が大きい。例年、図表の読み取り問題が多く、本年度もすべての大問で地図またはグラフが使用されており、II・IV では統計データの判定を求められている。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 論述式	インドの鉱工業	地図利用。記述式は経済体制の変化や都市名、ジュートの生産地、石炭産地の判読など。論述式は、(4)ジャムシェドプルに製鉄所が建設された立地上の要因 (35 字)、(5)外国資本をひきつける要因となっているインドの人口構成上の特徴 (10 字)。	標準
II	選択式 記述式 論述式	都市	リード文・グラフ利用。グラフは春日井市、川崎市、東京都中央区、富山市の人口増減率の推移。選択・記述式はグラフの判定と、都市に関連する用語が中心。論述式は、(3)住宅都市における高齢化の理由 (40 字)、(5)ジェントリフィケーションにおける住民構成の変化の特徴 (30 字)。	標準
III	記述式 論述式	砂漠化の危険性の高い地域	リード文・地図利用。記述式は乾燥地域に関連する地域名や、水利用、土壌、植生などに関連する用語。論述式は、(2)チリ北部付近で砂漠化の危険性が高い原因 (40 字)、(4)プレーリー土が成立する地域の植生 (10 字)、(5)グレートプレーンズ付近の牧畜業の変化 (30 字)。(3)の掘り抜き井戸は、地点 E がグレートアーテジアン盆地の場所と異なるためやや答えにくい。	標準

Ⅳ	記述式 論述式	航空交通	グラフ利用。グラフは7都道府県における旅客輸送量と貨物輸送量。記述式はグラフ中の都道府県名判定と、ハブ空港の都市名，新型コロナのパンデミック。論述式は，(2)ハブ空港の説明(40字)，(3)北海道，沖縄，福岡において国内航空旅客輸送が大きい理由(40字)，(4)航空輸送が選択される貨物の特徴(30字)，(5)新型コロナ流行による旅客輸送と貨物輸送の変動において違いが生じた理由(40字)。	標準
Ⅴ	記述式 論述式	地形図読図	扇状地(山梨県斐崎市・南アルプス市)の新旧1/2.5万地形図。記述式は，土地利用と村落名称。論述式は，(1)果樹園と地形との関連(無指定)，(2)桑畑と工業との関連(30字)，(3)工場の立地場所(無指定)，(4)せきの設置目的(40字)，(5)図中の用水路が自然の流路でない根拠(無指定×2)，開発における徳島堰の役割(無指定)。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を利用した基本知識(地名や用語)の蓄積は当然だが、論述式への対応として、基本的な地理用語の語義、自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて、簡潔に(20字～80字程度)ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。また、地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く、難問もあるので、日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。特に地形図の読図問題は、毎年必ず出題されるようになっているので、早い時期から読図練習に取り組むことが必要である。これらについては、過去問を研究して確かめておこう。